



第35回

教員展

ごあいさつ

四国大学文学部書道文化学科は、「書道に親しむ」から「書道を楽しむ」、さらに「書道を活かす」へと発展させ、書道文化の専門的探求を目指すユニークな学科です。

学生たちは、書道の「技術」「歴史」「理論」などを探求していく中で書道文化を理解し、また書の作品制作を通して自己を表現し、新たなことを創造する力を身につけていきます。本学科では、学生と教員が一丸となって元気に活動していることが特色です。学生が身につけた力は書道以外の分野でも応用範囲が広く、卒業後には様々な職業の中でそれを活かしています。

私たち教員も、教育と研究の責務を果たすべく日々取り組んでいます。この展示会は、学科の専任と非常勤の教員が書法研究発表の場として年一回開催し、今年で35回目を迎えました。

時節柄、コロナ禍に対応した鑑賞法をお願いしております。また大学HPでの発表とこのパンフレット送付によって、学外の多くの皆様にも鑑賞していただきたく存じます。なにとぞ御高覧のうえ、御教示賜りますようお願い申し上げます。

(出品者一同)

【交流プラザ展】

会期 令和3年7月30日(金)～8月1日(日) 10:00～17:00

場所 四国大学交流プラザ3Fキャンパスギャラリー

【学内展】(受付はおりません)

会期 令和3年8月2日(月)～8月21日(土) 9:00～18:00

場所 四国大学 書道文化館1Fギャラリー

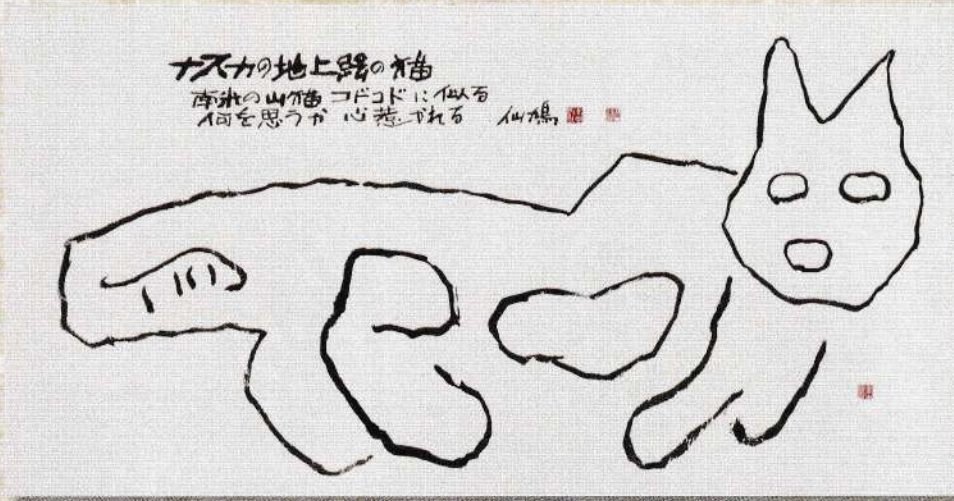
(但し、7～9日、12～16日は休館)

主催 四国大学 学際融合研究所 言語文化研究部門

太^{おお}
田^た

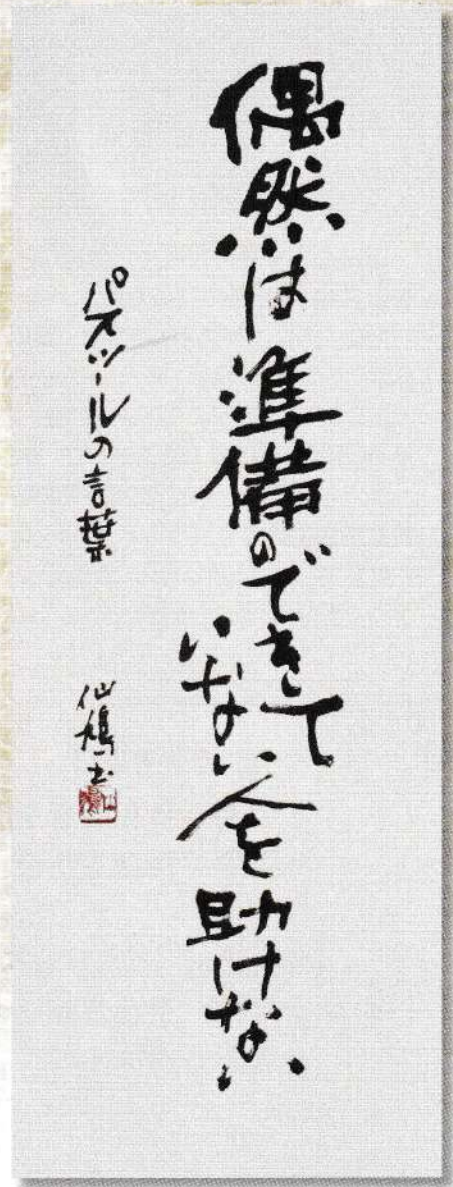
剛^{つよし}
(仙鳩^{せんきゅう})

ナスカの地上絵「猫」



75×143

パストールの言葉



91×35

ハンデル版本体「明けない夜は無い」



68×35

辻つじ

尚たか

子こ

(紅雲こううん)

羅隱詩二首

天賜臙脂一抹腮 盤中磊落笛中哀 雖然未得和羹便 曾與將軍止渴來
佛屋前頭野草春 貴妃輕骨此爲塵 從來絕色知難得 不破中原未是人

天賜臙脂一抹腮 盤中磊落笛中哀 雖然未得和羹便 曾與將軍止渴來

佛屋前頭野草春 貴妃輕骨此爲塵 從來絕色知難得 不破中原未是人

羅隱詩二首 紅雲

森 もり

上 かみ

洋 よう

光 こう

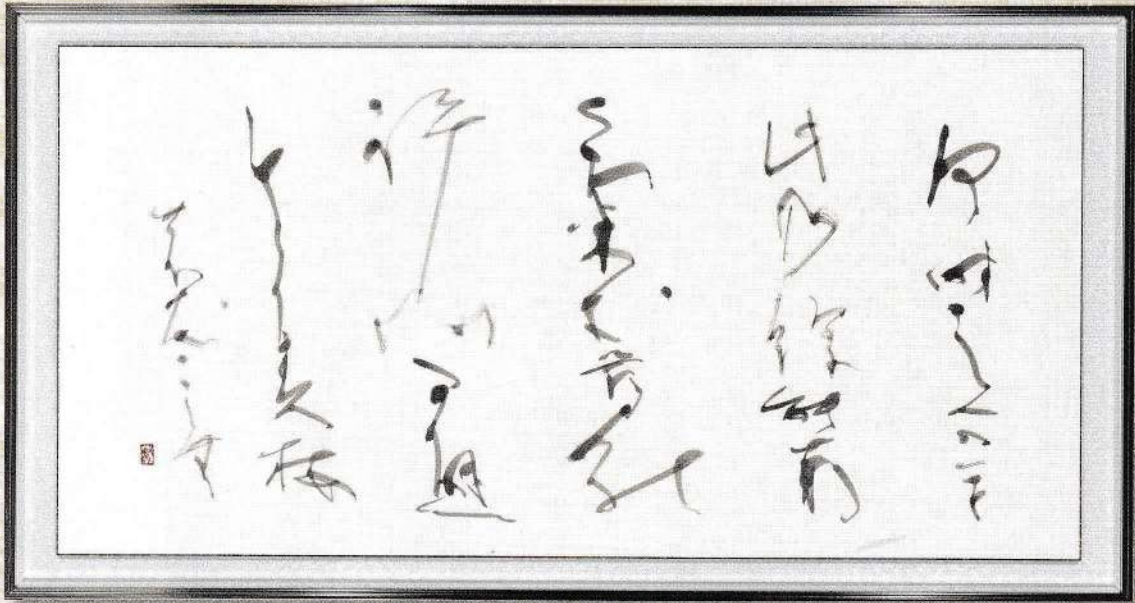
嚴恭寅天命（嚴として天命を恭寅す）



227×83×2

黒^{くろ}
田^だ
賢^{けん}
一^{いち}

「梅の花」〔三万葉集〕より

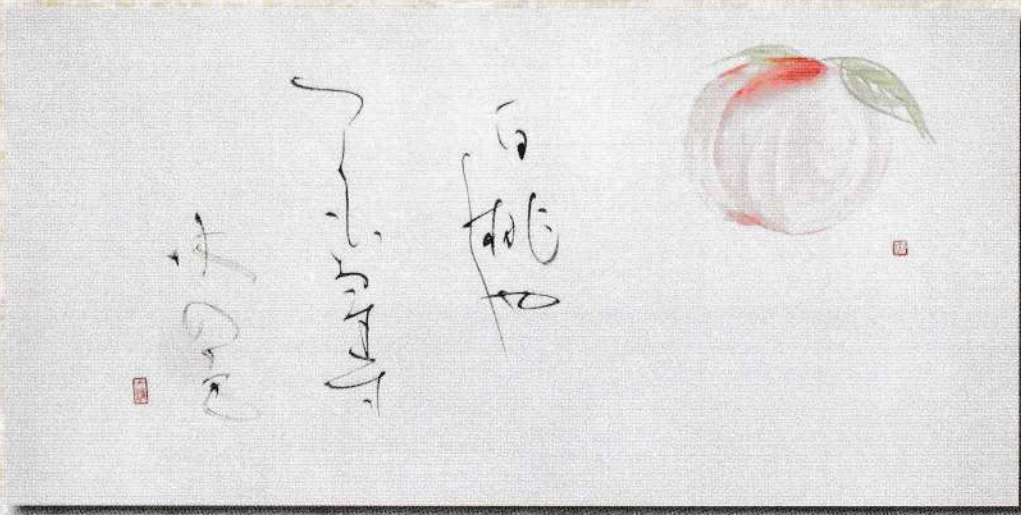


95×180

何時しかも
此の世の
明けむ鶯の
木伝ひ
散らす梅
の花見む

田たノの岡おか
大だい
雄ゆう

「桃」(桃隣の句)



34.5×68

白桃や
雫も
おちず
水の色

「寒月」(蕪村の句)



70×172

寒月や
門無き
寺の天
たかし

渡わた

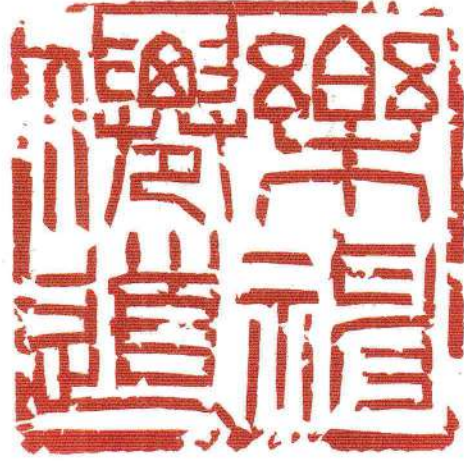
邊なべ

周しゅう

一いち

(星舫せいぼう)

樂神仙道



6×6

壽與山齊福隨春至



5×5

騰龍



6×6

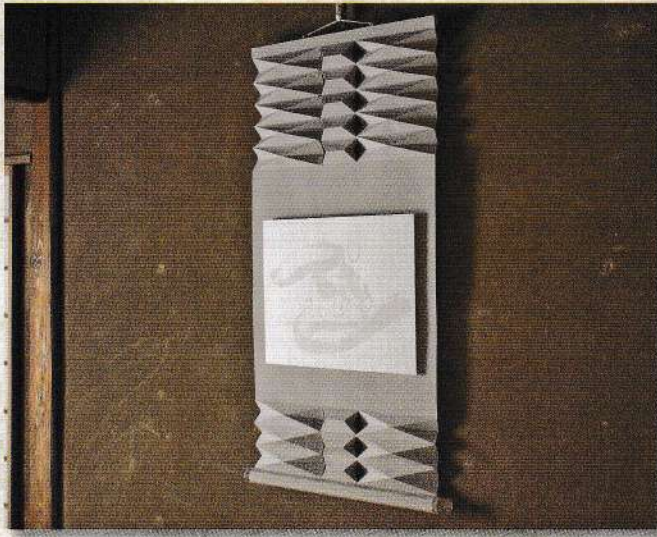
盡君飲



5.5×5.5

上^{うえ}
田^た
普^{ひろし}

「ときめき」
(軸製作 辻めぐみ)



本紙 22.5×34 軸 79×47

鹿^か
倉^{くら}
壯^{たけ}
史^し
(碩^{せき}斎^{さい})

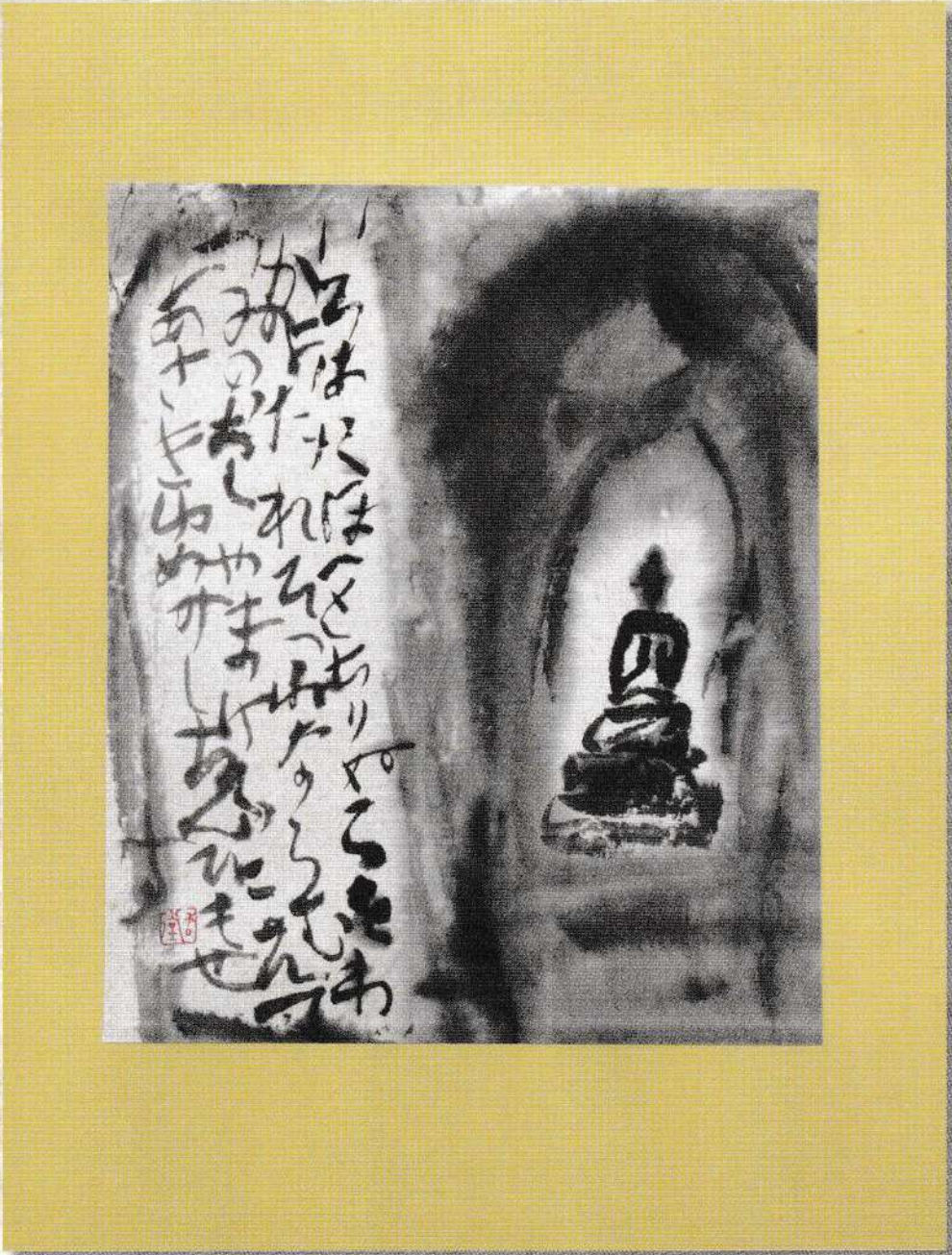
周於能
〔淮南子〕の語



32.5×11.5

黒くろ
木き
知とも
之ゆき

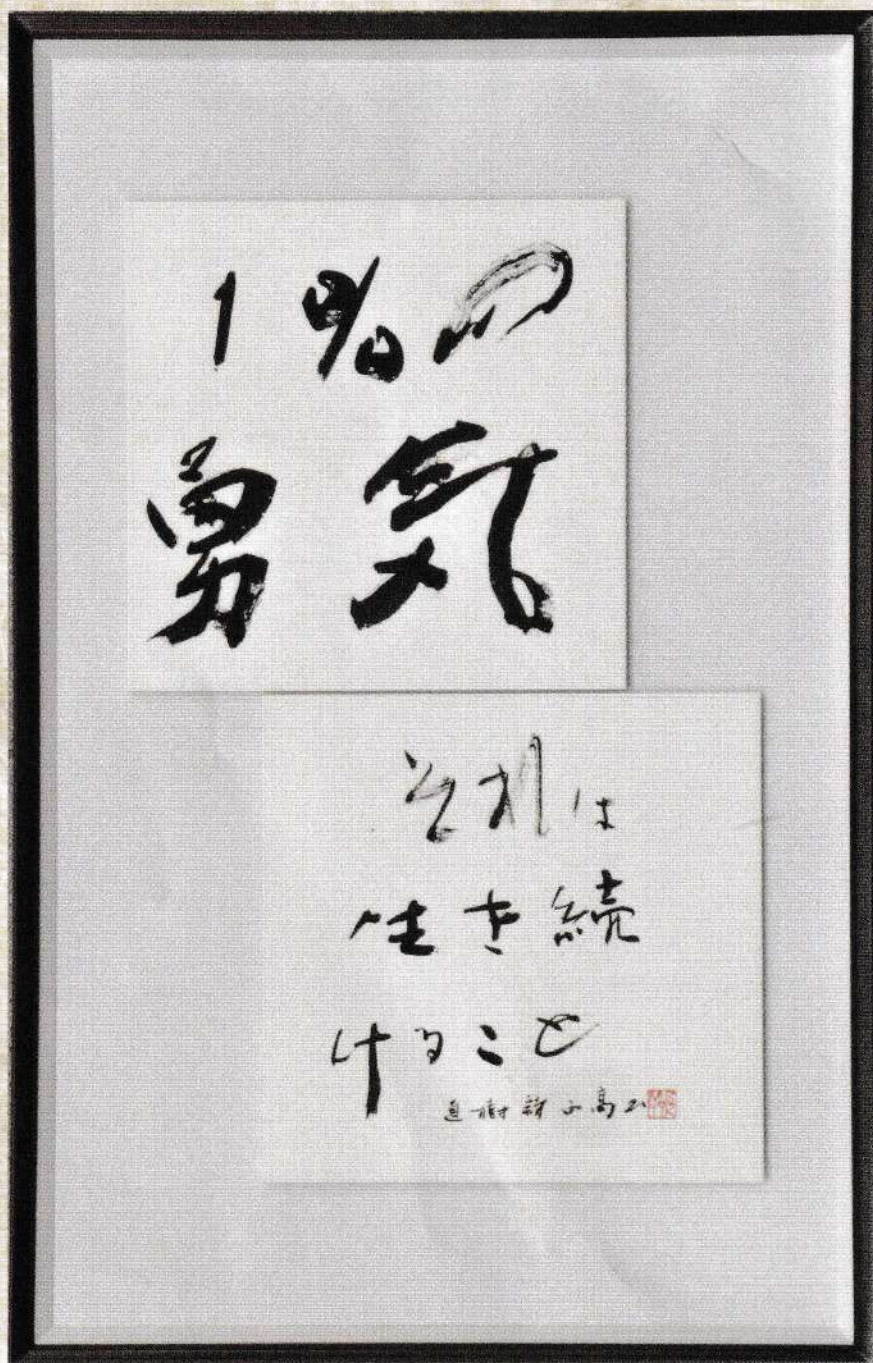
「いるは」



22×18.5

小こ
竹たけ
正まさ
高たか

「1%の勇氣」(東田直樹の言葉)



35×35×2

松^{まつ}
村^{むら}
茂^{しげ}
樹^き

關於吳昌碩的「道在瓦甃」（吳昌碩の「道は瓦甃に在り」について）

道在瓦甃



道在瓦甃之句見於莊子知北遊篇而莊子詭為不常瓦甃其意殊不足取的東西也
也有道吳昌碩三十三歲時刻這句印他
收藏漢晉磚甚多而採取磚字的趣味
為自己刻印的風格因此書於吳昌碩本
說他的道在塼即瓦甃

辛丑夏月日在石鼓齋并記於自家北窗下

27.2×24.2

【口語訳】

道は瓦甃に在り

「道は瓦甃に在り」の句は、『莊子』
「知北遊篇」に見える。莊子は、瓦甃
（かわら）のような取るに足らない
ものにも道があると考えていた。

吳昌碩は三十三歳の時にこの句の印
を刻している。彼は、漢晋の磚をとて
も多く蔵しており、磚の字の味わい
を自らの刻印の風格としていた。だ
から吳昌碩にとつての道は磚、つま
り瓦甃にあるのである。

川^{かわ}
尾^お
朋^{とも}
子^こ

書／箔「心」



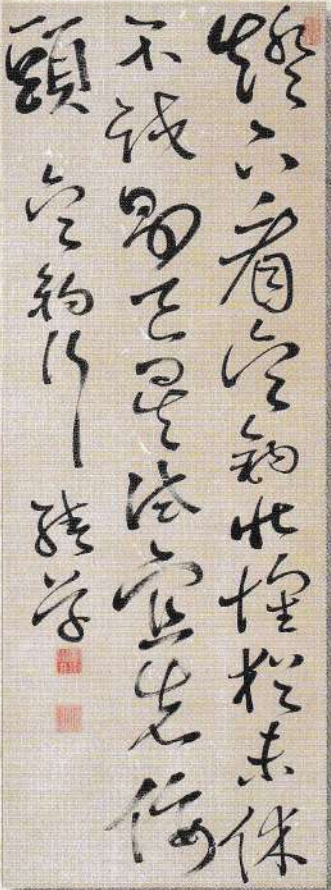
19.5×27.2

【阿波ゆかりの書人 紙上作品展】

四国大学書道文化研究センターでは、地元に関係する近世から近代にかけての書家の作品を収集し、教員展の折に、少しずつ展示して、鑑賞していただいております。

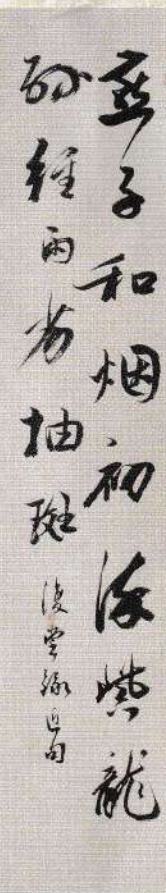
なわもうせん
那波網川 宝曆七〜文化十（1757〜1813）五十七歳

播磨網干（姫路市網干区）の出身。名は績、字は世勲、通称は大助・与蔵。永田孫右衛門直道の四男。佐々木を名のる。若年で京都に出て芥川丹邱に学ぶ。のち那波魯堂の門人となり、魯堂が徳島に招聘されるのに随行した。魯堂の没後、男子がなかったため推されて師の娘の貞と結婚し家督を相続した。寛政四年（1792）、寺島学問所の文学教授になり、享和二年（1802）、淡路島の洲本学問所の文学教授に転じ、居を洲本に移した。



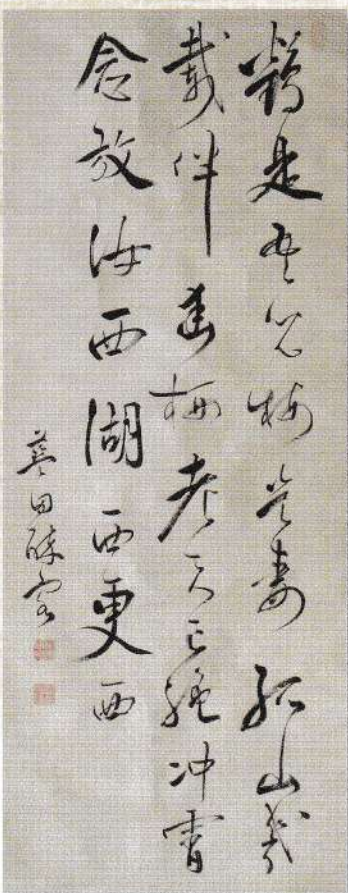
てつ
鉄 復堂 安永六〜天保十四（1777〜1843）六十七歳

徳島の生まれ。名は煥、字は子文、通称は嘉蔵。幼時は八木巽所に学び、長じて那波網川の門に入る。江戸に行き古賀精里の学僕として学ぶ。加賀藩より招かれたが父の病気で辞退し、徳島に塾を開いて教え、多くの人材を育てた。



ふじいらんでん
藤井藍田 文化十三〜慶応元（1816〜65）五十歳

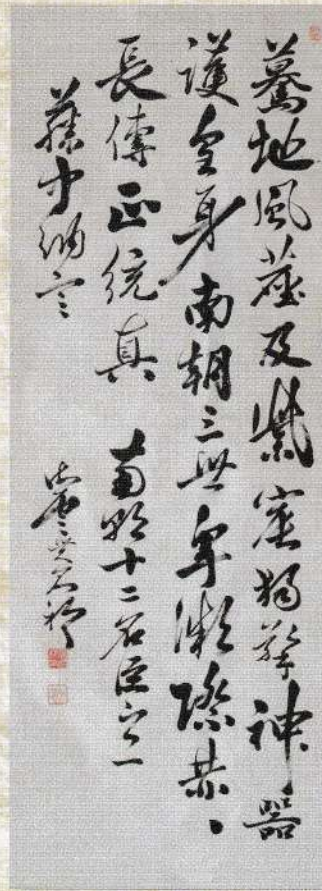
大阪に生まれる。名は尚徳、字は伯恭、通称は平左衛門。父は阿波麻植郡牛島（吉野川市牛島）出身の呉服商。十五歳の時から漢籍を広瀬淡窓に、書を八木巽所に、画を中江藍江・田能村竹田に学ぶ。大阪南堀江に玉生堂塾を開き、尊王を説いた。幕府の目を逃れて父の実家に移り、二年後に大阪に戻るが、新撰組に捕縛され拷問を受け獄中に歿した。



ぬきなかいうん
貫名海雲

天保二〜明治三十一（1831〜1908）六十八歳

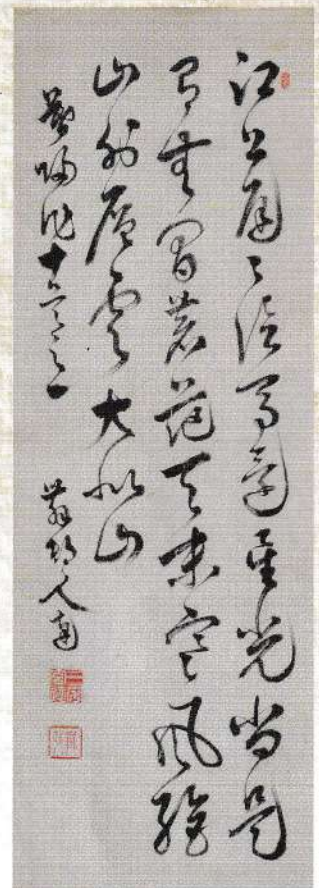
淡路洲本の生まれで、外山三太夫の次男。名は正祚、通称は右近。少年の頃から能書の聞こえが高かったが、京都に遊学して貫名菘翁の門に入り塾頭となる。後に菘翁の次女の女婿となり貫名家を継いだ。菘翁が聖護院村に隠居してからは、京都室町の須静堂で多くの子弟に書や漢学を教授した。また一条家に奉仕し高貴の人々に指導することも多かった。明治維新後は東京に移って外務省書記となり、神田猿樂町で漢学塾を開いた。



みやげぶそん
三宅舞村

天保五〜明治四十一（1834〜1908）七十五歳

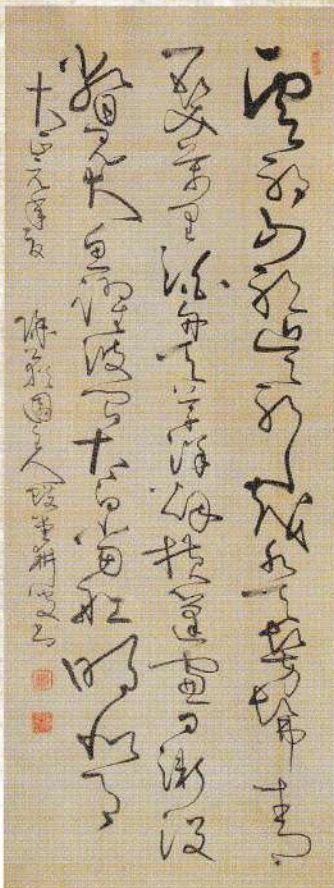
阿波美馬郡舞中島に生まれる。医家、三宅速水（杏堂）の長男。名は高達、字は玄達。詩文・儒学を巖本賢庵・藤澤東咳・広瀬淡窓・旭荘に学ぶ。医学は、大阪の吉益掃部・華岡南洋に学び、のち京都の百々二郎に入門してその塾頭となる。また書を貫名菘翁に学ぶ。安政五年（1858）に帰郷して父のあとを継いで開業し、特に外科をもつて知られた。明治七年（1874）、美馬郡医師組合会頭に就任。医業の傍ら、脇町郷校の講師、司読、藩校長久館の寮員を勤めた。



つこうたくどう
都郷鐸堂

安政五〜昭和十九（1858〜1944）八十七歳

美馬郡一字村伊良原の人。名は角太郎、別号は屈伸園・蠶堂。辰蔵の長男。若年で三宅舞村に学び、さらに宮内安芸・山口義長・田辺龍仙に学んで、小学校教員として和歌山市に行く。そこでは森田節齋の妻、無絃媼に漢学を学ぶ。徳島県に戻り教員をしながら書道を研鑽した。草書得意とし、全国各地で書道の講習会を実施。出版物も多く大きな影響力を持った。晩年は視力が衰えたが、養女の手で引かれて広島・今治・京都・東京などを移転しながら遊説した。



出品目録

太田 剛 (仙鳩) (教授)

ナスカの地上絵「猫」
パスツールの言葉
ハングル版本体「明けない夜は無い」
一字書「鎮」
『理趣経』五番偈

辻 尚子 (紅雲) (教授)

羅隠詩二種
「蕭颯」
趙嘏詩句
金子みすゞの詩「金魚のお墓」
廣瀬淡窓の詩

森上 洋光 (教授)

金文「巖恭寅天命」
楷書「韓勅碑」

黒田 賢一 (客員教授)

「梅の花」(『万葉集』)

田ノ岡 大雄 (常勤講師)

「寒月」(蕪村の句)
「霍公鳥」(弓削皇子の歌)
「桃」(桃隣の句)
「白紙」(正岡子規の句)

渡邊 周一 (星舫) (常勤講師)

「壽與山齊福隨春至」(鐘伯敬の語)
「騰龍」(『説苑』説叢)
「樂神仙道」(徐南復の語)
「盡君飲」(『小学』)

上田 普 (講師)

「ときめき」

鹿倉 壮史 (碩齋) (講師)

「周於能」(『淮南子』)

黒木 知之 (講師)

「いろは」

小竹 正高 (講師)

「1%の勇氣」(東田直樹の言葉)

松村 茂樹 (講師)

關於吳昌碩的「道在瓦甃」
(吳昌碩の「道は瓦甃に在り」について)

川尾 朋子 (特認教授)

書ノ箱「心」



〒771-1192 徳島市応神町古川

四国大学

学際融合研究所 言語文化研究部門

TEL 088(665)1300

FAX 088(665)8037

ホームページ

<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/gakusai-yugo-labo/lc-dep/>